自治体名：福井県越前市

自動運転社会実装推進事業

最終報告書（公開版）

**【事業背景・目的】**

人口減少に伴い利用者・働き手が減少する可能性が高いことに加え、今後の公共バス網維持・市街地回遊のための移動サービスを構築し、公共交通網の課題解決を図るため、自動運転技術を活用した効率的な事業運営を目指す。

**【事業内容】**

ハピラインふくい武生駅を起点に中心市街地を回る自動運転バスの実証実験（L2）を実施

運行場所：ハピラインふくい武生駅～総社大神宮

運行期間：令和６年１０月２１日（月）～２６日（土）

運行形式：定時定路線運行（無償）

**【検証項目・検証方法】**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 検証項目 | 検証方法 |
| 経営面 | 再利用、継続利用の意向 | 利用者アンケート |
| レベル４通年運行に向けた採算モデルの確立 | 財政シミュレーション |
| 通年運航時の乗車料金の意向 | 未実施 |
| 新規性・発展性 | 利用者アンケート |
| 技術面 | 自動運転レベル4の実現を妨げる項目の洗い出しと対策 | リスクアセスメントおよび実証データから自動運転レベル4の実現を妨げる項目を洗い出し、対策を検討する |
| 自動運転の基本設計 | 実証を通して運行体制やオペレーションの実現性を検証する |
| 自動走行および手動走行比率 | 遠隔監視室にて実際の走行中の自動走行・手動走行を記録し、比率を算出する |
| 社会受容性面 | 自動運転の受容度 | 利用者アンケート |
| 試乗車への自動運転サービスの満足度調査 | 利用者アンケート |
| 利用率 | 実施結果 |

**【検証・分析結果】**

■経営面

●『再利用、継続利用の意向』については、目標値である「再利用、継続利用の目的・利用想定頻度：70％以上」に対し、市民アンケートの結果、再利用の希望が84.3％という結果となった。

●『レベル４通年運行に向けた採算モデルの確立』及び『通年運航時の乗車料金の意向』については、目標値は設定したものの、今年度の実証実験での検証は未実施となった。

●『新規性・発展性』については、目標値である「他のルートでも実装してほしいというアンケート回答：50％」に対し、市民アンケートの結果、他のルートへの実装希望が71％、導入賛成が84.8％という結果となった。

アンケートの結果、他ルートへの実装を希望する割合は高く、導入に対する賛成の割合も非常に高かったことから、今後のルート選定に合わせ、妥当な運賃について検討を進めていく。

今後の事業継続・拡大にあたり、企業等に対し協賛や共同運行の提案を行っていく

※経営面の主要な検証項目について、検証・分析結果を記載してください（500文字程度）

■技術面

●『自動運転レベル4の実現を妨げる項目の洗い出しと対策』については、実証データの取りまとめから、自動運転レベル4の実現を妨げる項目の洗い出し及び対策の立案を実施した。

　　［主な項目一覧］信号認識、信号交差点における右折、駅バスロータリーにおける駐車車両回避、路上駐車車両回避

●『自動運転の基本設計』については、想定走行ルートのODDを作成して対応した。

●『自動走行および手動走行比率』については、自動走行：84％、手動走行：14％という結果となった。

最も多くの手動介入が必要とされた要因は、路上駐車回避であった。この点に関しては、地域住民への注意喚起や注意看板の設置等の対策が必要である。また、路上駐車禁止区域ではない路線については、路上駐車が常態化しており、ルートの一部見直しも検討する必要があることが分かった。

■社会受容性面

●『自動運転の受容度』については、目標値である「市内で運行されることに「強く賛成」又は「賛成」との回答：50%以上」に対し、85.4％という結果となった。

●『試乗車への自動運転サービスの満足度調査』については、目標値である「「再度利用を希望する」との回答：80%」に対し、84.3％という結果となった。

●『利用率』については、目標値である「定員に対する乗車：20%」に対し、81.8％という結果となった。

運行ルート上の町内や関係団体に対し、安定運行確保に向けたルート周辺での自家用車等の駐停車への配慮について説明し、チラシを回覧した。実験期間中は一部区間での駐停車が減少したことで手動介入の機会も減り、安定運行に寄与する結果となり、社会受容性の醸成も図られた。